

## 会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称 令和2年度第2回美里町生活支援体制整備協議会
- 2 開催日時 令和2年9月30日（水）午前10時から午前12時まで
- 3 開催場所 駅東地域交流センター 大会議室
- 4 会議に出席した者
  - (1) 委員 小野俊次会長、渡邊かおり副会長、角田フミコ委員、伊藤秀司委員、佐々木義夫委員、小野祐哉委員、松田正敏委員、菅原亨委員
  - (2) 事務局 相原浩子、高橋ひろみ、横山太一、菅井晶、永沼威雄、高橋ゆかり
- 5 議題
  - (1) 開 会
  - (2) 会議録署名委員の選出
  - (3) 報 告
    - ①いきいき百歳体操研修会・モデル事業について
    - ②ボランティア・地域活動講座について
    - ③生活支援コーディネーターの活動について
  - (4) 協議事項
    - ①生活支援のしくみの検討について
    - ②くらしのサポーター情報交換会について
    - ③令和2年度啓発事業について
  - (5) その他

6 会議の公開・非公開の別

公開

7 非公開の理由

8 傍聴人の人数

0人

9 会議の概要

・会議録署名委員の選出

渡邊かおり副会長、松田正敏委員

(1) 報告事項における詳細な意見

①いきいき百歳体操研修会・モデル事業について事務局相原より説明	
佐々木委員	いきいき百歳体操のDVDは借りられるのか。
相原	DVD-ROMを持参してもらえれば映像データをコピーして渡すことができる。
②ボランティア・地域活動講座について事務局永沼より説明	
菅原委員	この講座で、コミュニティセンターとしても初めて社協と共催で事業を行った。コミュニティセンター独自では人を集めるのが大変だが、今回は人も集まり地域活動の啓発としては良い機会だったと感じた。今後回数を重ねることで、多くの人に参加してもらえると良いと思うため、今後も社協とコミュニティセンターで連携できればいいと思った。
伊藤委員	シルバー人材センターでも会員向けに感染に注意するよう周知している。全国で感染した会員は1人だけである。高齢者でも働いている人は意識が高く感染率が低いと感じる。今後も感染拡大する可能性があるので、対策を考えておく必要があると思っている。
③生活支援コーディネーターの活動について事務局高橋（ゆ）より説明。委員の写真に掲載した地域支え合い情報誌「おげんきですか。」について反響や意見を聞く。	
伊藤委員	情報誌を見たとき声を掛けられた。住民は見てくれていると実感した。
渡邊副会長	JAでも広報誌を作成しているが、合併したこともあり、地域に密着した内容が少なくなった。これだけ地域に密着した内容を広報できることは良いと思う。

佐々木委員	見たよと声を掛けてくれた人がいたが、あの情報誌はどういう意味かと聞かれた。人によっては写真だけ見てる人もいて、内容が伝わってないかもしれない。
小野会長	ページが綴じられていないので、1枚だけ外れてしまう。
相原	文字数が多いので、文字の量を検討しても良いと思う。
伊藤委員	文字の大きさはとても良いと思う。小さいと読めない。
角田委員	文字の量が多いと初めから読まない。少ない方がいいと思う。
高橋（ゆ）	意見をもとに内容を検討していきたい。
高橋（ゆ）	（3）生活支援コーディネーターの活動について、続けて事務局高橋（ゆ）より説明。遠田商工会との冊子作成について意見を聞く。
伊藤委員	粗大ゴミの処分については、シルバー人材センターへの依頼が非常に多い。タンスや物置の処分・解体や、自宅にある物の整理整頓などはよく頼まれる。食品を配達する業者がわかることは、とても良いと思う。外出することが大変な人もいる。
高橋（ゆ）	（3）生活支援コーディネーターの活動について、続けて事務局高橋（ゆ）より説明。見守り・声掛け活動の仕組みの構築について意見を聞く。
永沼	美里町と涌谷町では見守り体制が違うと思うので、遠田商工会のエリアと合わせた遠田郡全体ではなく、各町の体制を活かしながら見守り体制を考えられた方がスムーズだと思っている。
伊藤委員	見守り体制の話題のなかで認知症の話題が出たが、認知症の方はそのような経過を辿るかということを知っていると良いと感じていた。知人は親が認知症になっていても、症状がわからず頻繁に喧嘩していたらしい。認知症を知っていれば良い対応ができたかもしれないと振り返っていた。シルバー人材センターでも、認知症を知る講座を考えたいと思っている。
菅井	認知症サポーター養成講座というものがある。依頼があれば、認知症を知る講座を開催できるので、いつでも相談してほしい。
伊藤委員	そのような講座があるならありがたい。コロナ禍が落ち着いたら、改めてお願いしたい。
小野会長	その講座は、認知症が心配な高齢者が受けられるのか。
相原	そのような高齢者に受けてもらって良い。認知症の相談窓口などの知識も得られるので、高齢者でも家族でもいい。個別に相談したい時は地域包括支援センターで対応できる。
伊藤委員	自分でも認知症かどうかわからないという人もいる。知人は物忘れの自覚が無かったが、運転免許の更新のため認知機能テストを受けた

	ら更新できなかった。そのような人もいるので、認知症の知識がいろんな人に広まると良いので、講座は大切だと思う。
高橋（ゆ）	町の老人クラブ連合会でも、以前、認知症サポーター養成講座を開催したと思うがどうでしたか。
松田委員	年1回の連合会の研修会で受講した。多い時で80人くらい受ける。
小野会長	受講する人の年齢はどれくらいか。
松田委員	65歳以上なので若い高齢者も来る。1か所で開催するので移動手段に困るという声も挙がっている。
高橋（ゆ）	認知症サポーター養成講座については、地域包括支援センターに相談してほしい。

（2）協議事項における詳細な意見

①生活支援のしくみの検討について、事務局高橋（ゆ）より説明。	
伊藤委員	見守りあいの、見守りの目というのは良い言葉だと思う。自然に見守れていると、ゴミ出しを手伝ってあげたりしている人もいる。一人暮らしだとわかったら自然に周囲も気にかけてくれるようになる。見守りの目を町全体で広げられるとよい。 ゴミ出し支援については、シルバー人材センターでもワンコインサービスで実施することを考えている。ゴミ出し以外も含めて全国のシルバー人材センターでも低料金で対応するところが増えている。有料の方が高齢者も頼みやすいようだ。
小野会長	地域での対応策や解決策として他に何かありますか。
角田委員	自分の行政区では、一人暮らしの高齢者でゴミ出しなど大変な時には、隣近所に協力してもらって、玄関前にゴミ袋を置いてもらったら、近所の人が集積所に持っていったりする。障害のある子が、隣に住む高齢者のゴミを自発的に持って行ってきているケースもある。関係が良好なら自然に手伝っていたり、民生委員から協力をお願いしたりという対応である。
高橋（ゆ）	考えていきたい地域の課題は資料のとおり生活支援、移動手段、通いの場、見守りあいの4つで良いか。
	（はいの声）
高橋（ゆ）	これらの地域課題について、解決できる仕組みを考えられるといいと思うが、仕組みを作っていくというのはなかなか難しい。他市町村の生活支援コーディネーターにも相談してみたところ、参考資料の涌谷町・登米市のようにモデル事業を行っている市町村があった。 課題に悩んでいる行政区があれば、その行政区に生活支援コーディネ

	<p>ネーター等が支援し、地域の課題や解決策を考えるとところから一緒に関わって、課題解決に向けて話し合い、実行に移していくという事業である。</p> <p>涌谷町の場合は、自治会等の地域住民に限定して、手上げ方式で募集した。安心連絡カードや「お願いカード」「おたすけ隊」の取組をしている。登米市の場合は NPO・ボランティア等の団体も広く募集し、助成金も多い事業にしていたが、モデル事業が終わった後に取組が続かなかったようだ。</p> <p>美里町でもモデル地域を募集して、地域と一緒に課題を解決する仕組みを考えていきたいと思うがどうか。</p>
小野会長	みなさん、どう思いますか。
佐々木委員	私は賛成する。先頭に立って取り組む地域があれば、いいところも反省点も実績として残して、次につなげていくのは大切だと思う。そのうえで、他の地域や住民へ広められたらいい。
小野会長	具体的な構想はあるか。
高橋（ゆ）	行政区・自治会単位で取り組めるといいと考えている。今後の協議会で事業内容を具体的に検討することとしてよいか。
	（はいの声）
高橋（ゆ）	モデル事業をしていくにあたり、涌谷町も登米市も助成金を設けているが、美里町の場合はどうしたらよいか。
角田委員	私は不要だと思う。自治会費を集めていて、今年は使っていない。また、極論だが、自分の地区の場合、ゴミ出し以外は既存の仕組みで対応できる。自治会の存在意義は、お互いの暮らしの見守りあいや支え合いだと思うので、自治会の部会に位置付けてもらって、続けてもらう方法を考えたほうが長続きすると思う。助成金をもらおうと、もらった時は取り組もうと思うが、助成金が無くなると、やめてしまうのではないか。
小野会長	他市町村は助成金を何に使っているか。
高橋（ゆ）	涌谷町の場合だと、「お願いカード」や広報誌の印刷代や勉強会の講師への謝金、会場代、消耗品、ボランティアの保険代等のようなものである。
角田委員	行政区長さんに理解と協力をいただくのが大切だと思う。行政区長さんに、このような取組が大事だということを社協からアピールしてもらって一緒にできることが大事である。
小野会長	必要経費はかかるかもしれない。
角田委員	どの行政区も予備費なども含めたお金があると思う。
小野会長	助成金をもらおうと、逆に、どうしてもやらなければと地域が負担に

	なると思う。行政区にお金はあるし、お金に関係なく協力してくれる住民もいると思う。
相原	始めに助成金があると、支出計画を住民が考えなければいけなくなるので、どうしても必要な場合のみ社協から行政区に補助するのはどうか。
小野会長	初めてのことだから、始めから何万円というのではなく、モデル事業を希望する行政区との話し合いで、お金が必要かどうかも考えられるといい。
高橋（ゆ）	②くらしのサポーター情報交換会について、事務局高橋（ゆ）より説明。
小野会長	情報交換会については、計画のとおりでよろしいか。
	（よしの声）
小野会長	情報交換会に出席するのは、コーディネーター一人だけか。
高橋（ゆ）	委員のみなさんで、都合が合う人がいれば参加してほしい。
高橋（ゆ）	③令和2年度啓発事業について、事務局高橋（ゆ）より説明。
小野会長	令和2年3月の開催予定だった啓発事業は新型コロナで中止になった。住民自身が住民の取組を発表する発表会である。開催する場合は12月頃だと思うが、今年度開催するかどうか協議したい。
佐々木委員	中止が一番安全だとは思いますが、今年中であれば定員を縮小して1カ所で行うのも選択肢だとは思いますが。感染状況によっては中止するのはどうか。
永沼	駅東地域交流センターの多目的ホールは150人定員なので、運営者も含めて70人程度となり、参加可能人数は50人程度になると思う。
角田委員	講演の時間があると長時間になるので、講演を無しにするのも良いと思う。
菅原委員	開催するとすれば1カ所で少ない人数かと思う。住民が発表することはお互いの刺激になって良い取り組みだと思う。
横山	住民の方が住民向けに話ができる機会は他に少ないと思うので、委員の意見を踏まえながら開催方法を考えたいと思う。
小野会長	仮に定員50人だとすると、行政区長が全て来るだけで超えてしまうので、呼び込みが難しいように思う。
伊藤委員	新型コロナの状況が悪化しそうな状況なので、本当は開催したいが今年度は中止とするのはどうか。
小野会長	自分も今年度は無理に開催しなくても良いとは考えるが、皆さんの意見を聞きたい。
伊藤委員	開催するのであれば、たくさん人を集められる時期に開催した方が

	よいと思う。発生した時の責任問題もでてくると思う。
松田委員	今はこのような状況なので開催しないほうがよいと思う。
小野委員	時期的にインフルエンザも多くなると思うので、中止を考えたほうがよろしいかと思う。
相原	中止するとすれば、他の手段で啓発できるもの考えたほうがよいと思う。来年度の開催についても、冬場の開催は難しいと思うので、夏など気候の良い時に開催するなど検討できるといい。
小野会長	中止の意見の方が多いようであるが、どうするか。
佐々木委員	本当は中止したい気持ちであるが、数年続いている事業なので開催できる方法を模索できればという思いもあった。ただ、責任問題という話題になれば中止せざるを得ない。他の手段や来年度の方針を考えながら、今年度は中止とすることでも良いかと思う。
小野会長	全体の意見として、今年度は中止として、他にできることを考えていくということで良いか。
	(はいの声)
高橋(ゆ)	他市町村の生活支援コーディネーターにも相談しながら、発表会ではない地域活動の啓発について考えていきたい。
小野会長	その他で何か協議したいことはあるか。
	(なしの声)
小野会長	以上で協議を終了とします。
	終了 12:00

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和 年 月 日

委員 \_\_\_\_\_

委員 \_\_\_\_\_